

平和行進活動交流ニュース

発行：原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会事務局団体・日本原水協
電話：03-5842-6035 FAX：03-5842-6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com

2019年
5月23日
発行

核兵器全面禁止・廃絶の声を広島・長崎・世界へ届けよう

6月26日から7月16日まで東京→広島コースの奈良・大阪・兵庫を行進する国際青年リレー行進者のペドロ・フェニスさん（フィリピン・ミンダナオ人民平和運動）のスピーチを紹介します。



私はジョングといいます。本名はペドロ・ボイエル・フェニス・ジュニアです。農学部を卒業し、アグロエコロジー*1を提唱し、実践しています。平和と正義を求めて行動している32歳です。

私は、フィリピン南部の三民族（Tri-People）*2による運動である「ミンダナオ人民平和運動（MPPM）」の一翼を担っている「変化を起こす青年運動（MYCC）」に参加して、2008年から社会、平和運動の青年分野で活動しています。

さまざまな体験や地域との交流、かかわりを通じて、私は権力と富の不平等な分配とアクセス、参加が、戦争や紛争、飢餓、不正義、反乱、破壊、憎しみ、偏見を作り出していることに気が付きました。運動への参加を通じて私は農業への関心を強めました。広大な土地を持ち、豊かになれる可能性があるミンダ

ナオ島で、貧困と飢餓が蔓延しているのを目の当たりにしてきたからです。

食べるものを手に入れ、自らの経済活動をコントロールできるようになれば、その地域と人びとは、ともに立ち上がり、外部の押し付けから自由になることができます。「言うは易く行うは難し」ですが、私の経験からしてもこれは本当のことです。このようなコミュニティの人びとが、自らの土地を耕し、権利を取り戻して、地球を冷やし（＝温暖化を防止し）、紛争を鎮め、家族を養えるようになるためには、環境保護と科学的な考え方を持つことが必要だと考えています。これを家庭からあるいは地域など、どこかから始める必要があるのです。



2013年に大学を卒業してから、私はミンダナオ島の北ラナオ州で「農民の民主運動 the Democratic Movement of Peasants (DKMP)」という土地の権利と有機自然農法を促進する団体で活動を始めました。そこで自分の知識をシェアする以上に、その地域と人びとから多くのことを学びました。

私は、ミンダナオ青年平和連合 (AKMK) *3 とミンダナオ人民平和運動を通じて、人びとの思想信条、文化、生き方には多様性と違いがある一方で、私たちには多くの共通点があることも学びました。これらの人びとと社会のさまざまな部門が描いている未来は、公正な平和、個人と集団の権利の実現、持続可能で包括的な開発、健康な家庭と地球です。私に視野を広げる機会をくれ、今年の国民平和大行進参加の道を開いてくれたミンダナオ人民平和運動に感謝しています。



また、同じミンダナオからこれまでに、仲間のニーニョ、ボルティモア、マテット、ブッチ、ライダが、みなさんと一緒に平和行進に参加しました。みなさんと連帯して、被爆者の方がたが求め続けている正義と平和、核兵器廃絶の呼びかけにこたえて行進することができることを、心から光栄に思い、深く感謝申し上げます。

今回、2019年原水爆禁止国民平和大行進に国際青年リレー行進者として参加し、あらゆる大量破壊兵器に反対するみなさんの闘いに加わることができてとても嬉しいです。また、これまでに行進に参加したミンダナオの仲間たちから、被爆者、生協、女性団体、学者、青年、宗教団体、草の根の組織のみなさんの熱意とねばり強い活動について聞いていました。今回直接みなさんのお話を聞けるのを楽しみにしています。

そしてもっと大事なことですが、日本の青年や子どもたちが、地球温暖化を防ぎ、争いがなく、健康で、平和な未来を創るための活動に加わるよう激励することが、平和・環境活動家としての私の道徳的な責務だと思っています。

カリナウ、平和、ピース！

訳注：

*1 アグロエコロジー：石油燃料に依存した工業化された農業に代わる、生態系を守る農業や社会の在り方)

*2 Tri-People: 三民族とは、先住民のルマド、イスラム教徒のバンサモロ、外部から移住してきたクリスチャン

*3 ミンダナオ青年平和連合。英語名 Alliance of Mindanao Youth for Peace 現地語で Alyansa ng Kabataang Mindanao para sa Kapyapaan (AKMK)